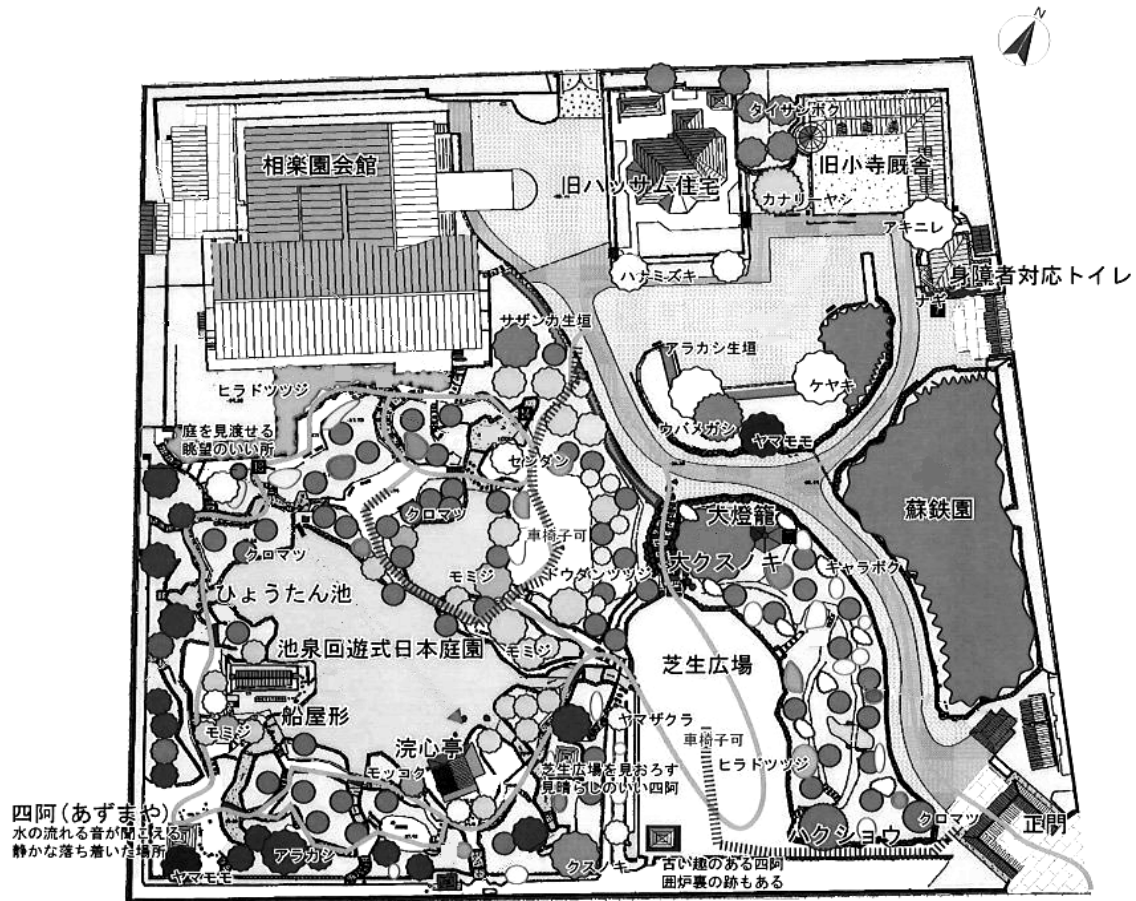


相楽園



元神戸市長 小寺謙吉氏の先代小寺泰次郎氏の本邸に営まれた庭園で、明治18年頃から築造に着手され、明治末期に完成。昭和16年以降神戸市の所有となり、一般に公開される。

中国の古書『易経』の一節にある「和悦相楽(わしてよろこびあいたのしむ)」からとって「相楽園」と名付けられる。

平成18年1月26日に国の登録記念物(名勝地)に登録される。19,566m²の敷地の中にある庭園は、神戸市の都市公園で唯一の日本庭園。

重厚な正門と欧風建築の旧小寺家厩舎、保存のために移築された船屋形、旧ハッサム住宅のほか、茶室洗心亭 が庭園の景観と調和する。

■日本庭園

池泉回遊式で、飛石や石橋を渡り、流れや滝石組など深山幽谷の景を見ることができる。

■船屋形(昭和28年重文指定)

現存する川御座船としては、国内で唯一。江戸時代、姫路藩主が河川での遊覧に使っていた『川御座船』の屋形部分だけを陸上げたもの。建造年代は1682～1704年と推定され、昭和55年に保存のため移築された。

木造2階建、切妻造桧皮葺で内部は1階2階とも3室に分かれていて、前方より「床机の間」「上段の間」「次の間」をなす。

木部は内外とも全てを春慶塗と黒漆塗に塗分け、長押や垂木の先には金箔を施した飾り金具を打つなど、非常に華麗で繊細な造り。

■旧小寺家厩舎(昭和45年重文指定)

小寺謙吉氏が河合浩蔵氏に設計を依頼、明治43年頃に建築した厩舎。円型の塔屋・急勾配の屋根や屋根窓・豊富な切妻飾り等、変化に富んだ意匠。広場に面して北側1階には馬車を入れる車庫、2階には厩務員のための宿舎、東側は高い吹抜けの天井をもつ馬房がある。

■旧ハッサム住宅(昭和36年重文指定) ※内部は公開されていません。

明治35年頃異人館街(北野町)に建てられた英国人貿易商の住居で、設計は英国人による。木造2階建、寄棟造桧瓦葺の和洋折衷建築物。昭和36年に神戸市が寄贈を受け、昭和38年に移築。前庭のガス灯は、明治7年頃当時としては非常に早い時期に建てられた外国人居留地の街灯。阪神大震災時に屋根から落下した煙突を前庭に保存している。

■相楽園会館

神戸市を訪れる賓客の接遇や市が主催する会議、催し物その他の諸行事の会場として建設。

室内から庭園の眺めのよさ、建物が庭園の景観を損なわないように設計。

1階はレセプションや会議用の大ホールおよび控室、2階には和室・大会議室などがあり、和洋の設備を備える。